

旅行取扱状況の概観（平成26年11月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

記

海外旅行の取扱いは、一般団体は前年比90.2%と前年を下回ったが、学生団体は同129.9%と大きく上回り、団体旅行合計で同103.0%と前年を上回った。企画旅行については前年比73.4%と前年を下回ったものの、個人旅行については同102.5%と前年を上回った。

この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比89.7%と前年を下回った。

国内旅行の取扱いは、一般団体は前年比105.6%、学生団体は同106.2%、団体旅行合計で同105.9%と前年を上回った。企画旅行については前年比96.6%と下回ったが、個人旅行については同103.0%と前年を上回った。

この結果、国内旅行総取扱額としては、100.1%と前年を上回った。

外国人旅行は、前年比120.6%と前年を大きく上回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の11月の総取扱額は前年比97.4%となり前年を下回った。

【主要会社の状況】

1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は昨年実施した大型のSIT旅行の反動があり、前年比91.3%と前年を下回った。学生団体は修学旅行や研修旅行の取扱いが堅調に推移し同130.7%と上回った結果、海外団体旅行合計で同104.1%と前年を上回った。

国内団体については、一般団体は大型の企業系コンベンションの取扱いはあり、前年比105.6%と前年を上回った。学生団体は堅調に取扱いが増加し、同106.2%と前年を上回った結果、国内団体旅行合計で前年比105.9%と前年を上回った。

2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱額で前年比99.3%と前年をやや下回った。方面別取扱人数の状況では、九州方面が好調を維持しており、関東近郊・関西・南紀方面が比較的好調に推移した。低価格帯商品のラインナップを縮小させた影響もあり全般的に伸び悩んだ。

ホリデイは、台湾が前年を超えたものの、引き続き東アジア方面を中心として全般的に不調である。各方面とも低価格帯商品のラインナップを縮小させた影響もあり、全体の取扱人数、取扱額とも前年を下回った。

3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は、アメリカ・オセアニア方面、海外SIT商品がけん引はしたものの、急激な円安やエボラ出血熱の影響もあり前年比81.2%と前年を下回った。

バス旅行を除く国内旅行部門は、主力商品である紅葉商品の不振が影響し、前年比94.4%と前年を下回った。

バス旅行部門は、御嶽山噴火による販売低下や、バス新運賃制度に伴う旅行代金値上げの影響もあり、前年比88.8%と前年を下回った。

テーマ旅行部門は海外ひとり旅が好調に推移し、前年比107.9%と前年を上回った

以上